

事業報告書

( 第 26 期 )

自 令和 4年 4月 1日  
至 令和 5年 3月 31日

笠間工芸の丘株式会社

## 第 26 期事業報告書

(令和 4 年 4 月 1 日より令和 5 年 3 月 31 日まで)

皆様におかれましては、平素よりご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症との共存は 3 年目を迎え、行動制限のない大型連休を迎えたことで対面型サービスを中心とした個人消費が増加し、日本経済全体を押し上げることとなりました。

当社でも、「陶炎祭」期間に開催していた「クラフトギャザリング」を 3 年ぶりに開催することができ、活気に満ちたイベントを開催することができました。

新型コロナウイルスを特別な脅威とまではみなさず、社会経済活動の正常化に向けた取り組みが進みつつある中で、制限を伴う対策からの出口を探り、段階的に、穏やかな対策で感染症との共存へ方針が変わりました。

下期には、新型コロナウイルス、オミクロン株が変化をしながら「第 8 波」と断続的に続いたものの、指針に沿い営業活動を積極的に取り組めるよう当社も転換を進め、秋以降、通常に近いイベントの開催や人の動きも活発化していることが実感できるようになり、今後への期待が持てるまでになりました。

ロシアのウクライナ侵攻から続く、物価上昇と海外景気悪化という強い逆風や、日本がまん延防止等重点措置などで欧米に比べ脱コロナ、ウイズコロナについて出遅れたことから、政府などの積極的な後押しで、海外からの個人旅行の受け入れや入国ビザ免除の再開など緩和措置、国内の全国旅行支援を実施したことから、人流が増加。宿泊業や旅行業など観光関連需要を押し上げたことが要因かと思われます。引き続き厳しい状況ではありますが、従業員共々、苦難を乗り越ってまいります。

今年度の入場者数は、113,300 人となりました（昨年度 97,300 人）。また営業日数も昨年度の 276 日から 309 日となり、コロナ以降、イベントも含め、ほぼ計画通りの営業が出来るまでとなりました。

10 月以降、全国旅行支援「いばらきあんしん割」や笠間市子育て・教育応援プレミアム e チケット、かさま Happy プレミアム商品券 2022 と様々な支援策を打ち出していただいた経緯もあり、順調に業績も戻りつつあるところまで来ております。

茨城県陶芸美術館で1月2日より開催の企画展「生誕150年記念 板谷波山の陶芸」も好評となり、例年落ち込む1、2月の実績を押し上げる結果となるなど、お客様の客足からも今後に期待できる実績になってまいりました。

第26期の売上高合計では、232,037千円となり、前年度の実績に対し30,677千円(15.2%)増加となり、新型コロナウイルス感染症が蔓延する中でも、営業できたことは大きな進展となりました。特に物販部門全体の売上157,705千円となり、23,037千円(17.1%)の増加となります。通常営業、イベントの開催によって、人の動きも次第に緩和され、販売にも繋がった結果と思われま

す。また、工房部門の売上は34,604千円となり、4,001千円(13.1%)の増加となりました。個人利用も安定した予約状況となり、団体、グループ利用の増加が主な要因となります。

手数料収入では、笠間芸術の森公園の管理手数料並びに工芸の丘指定管理料(芝生・樹木管理)に加え自動販売機手数料を含めると37,778千円となり、2,792千円(8.0%)の増加となりました。

売上原価は、90,925千円となり、原価率は39.2%となりました。

従いまして、売上総利益は141,111千円となり、前年比で19,150千円(15.7%)の増収となります。次に、販管費及び一般管理費は、145,706千円となり、前年と比較して7,232千円(5.2%)の増加となりました。特に水道光熱費の増加が顕著です。

なお、コロナ禍における雇用調整助成金、復活支援金等を含む、9,096千円を営業外収益として計上させていただきました。

これらの状況から、経常利益は4,422千円となり法人税等充当額185千円を充当した結果、当期利益は4,237千円となりました。

笠間市の観光振興と地場産業の発展に十分な役割が果たせるよう従業員一同、一層の努力を傾注してまいります。

引き続き、ご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。